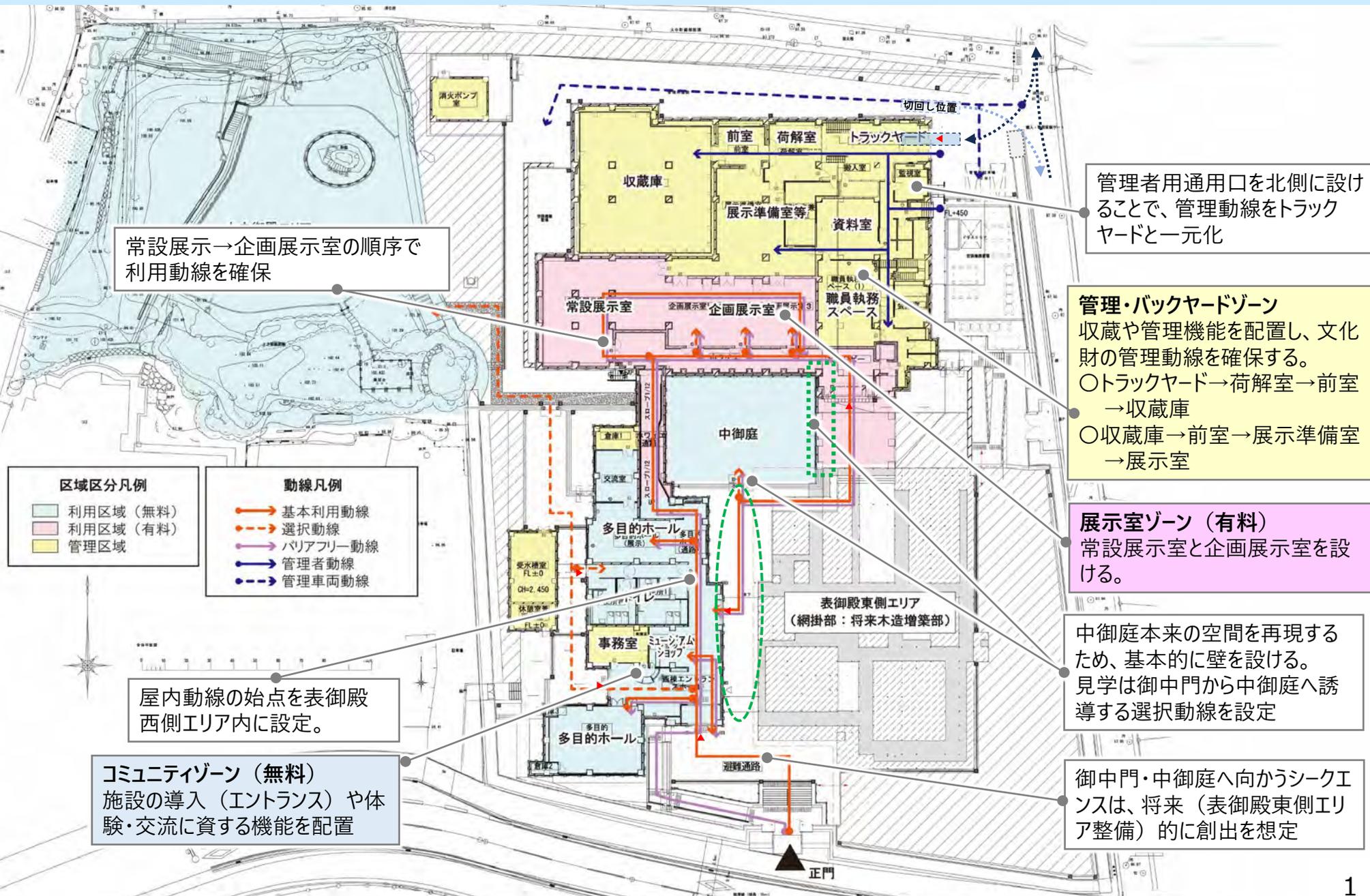


御内原・表御殿西側エリアの設計について

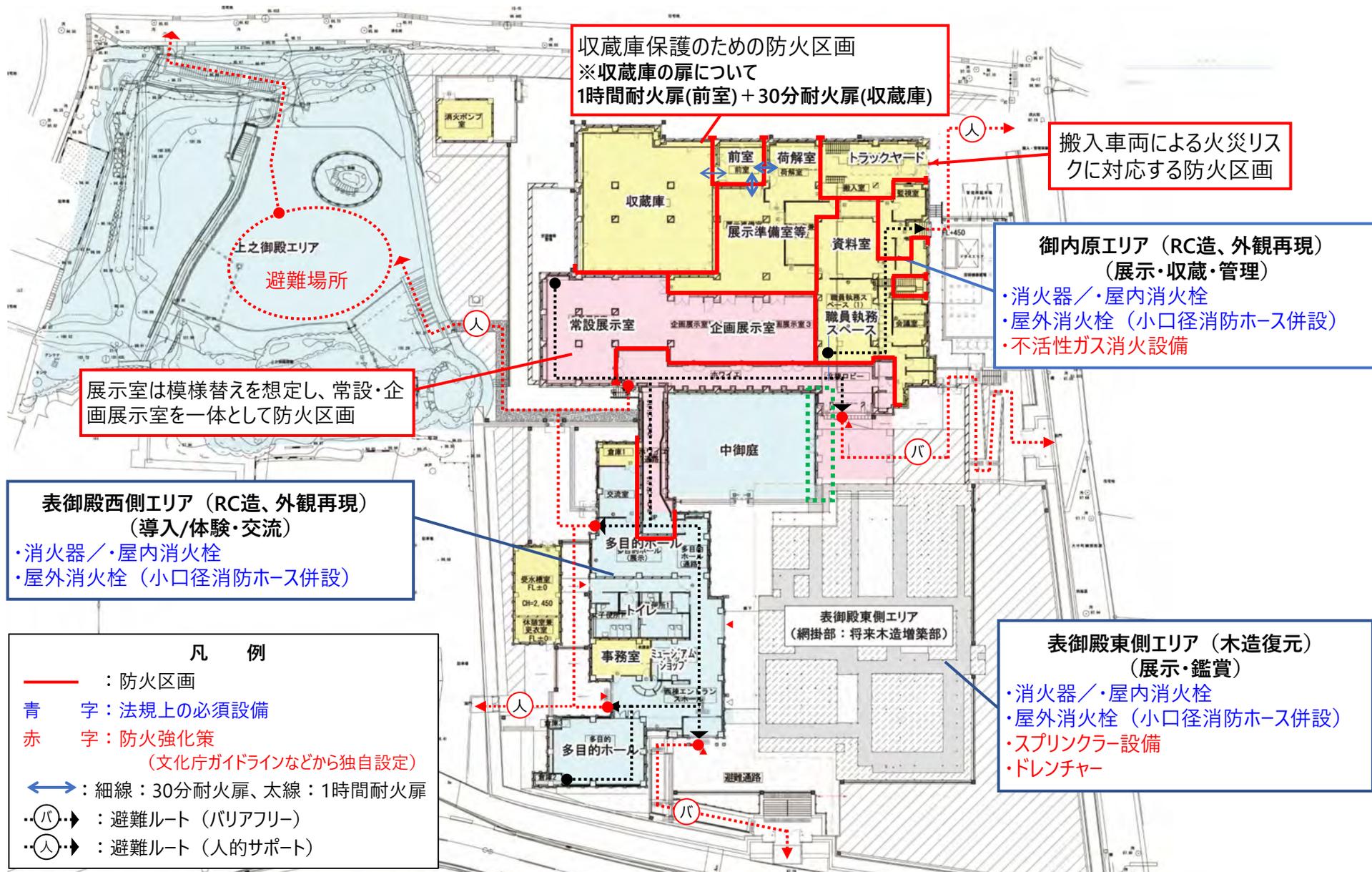
施設設計概要

1. 平面計画（動線および利用区域・管理区域）
2. 防火・防災計画（防火区画、避難動線、消火設備、消防隊の活動）
3. 断面計画（エリア別の高さ設定）
4. 立面計画（外観イメージ、主な外装仕上げ材）
5. 外構計画（正門・副門・中御庭のバリアフリー動線等の計画）
6. 防犯設備計画（計画方針）

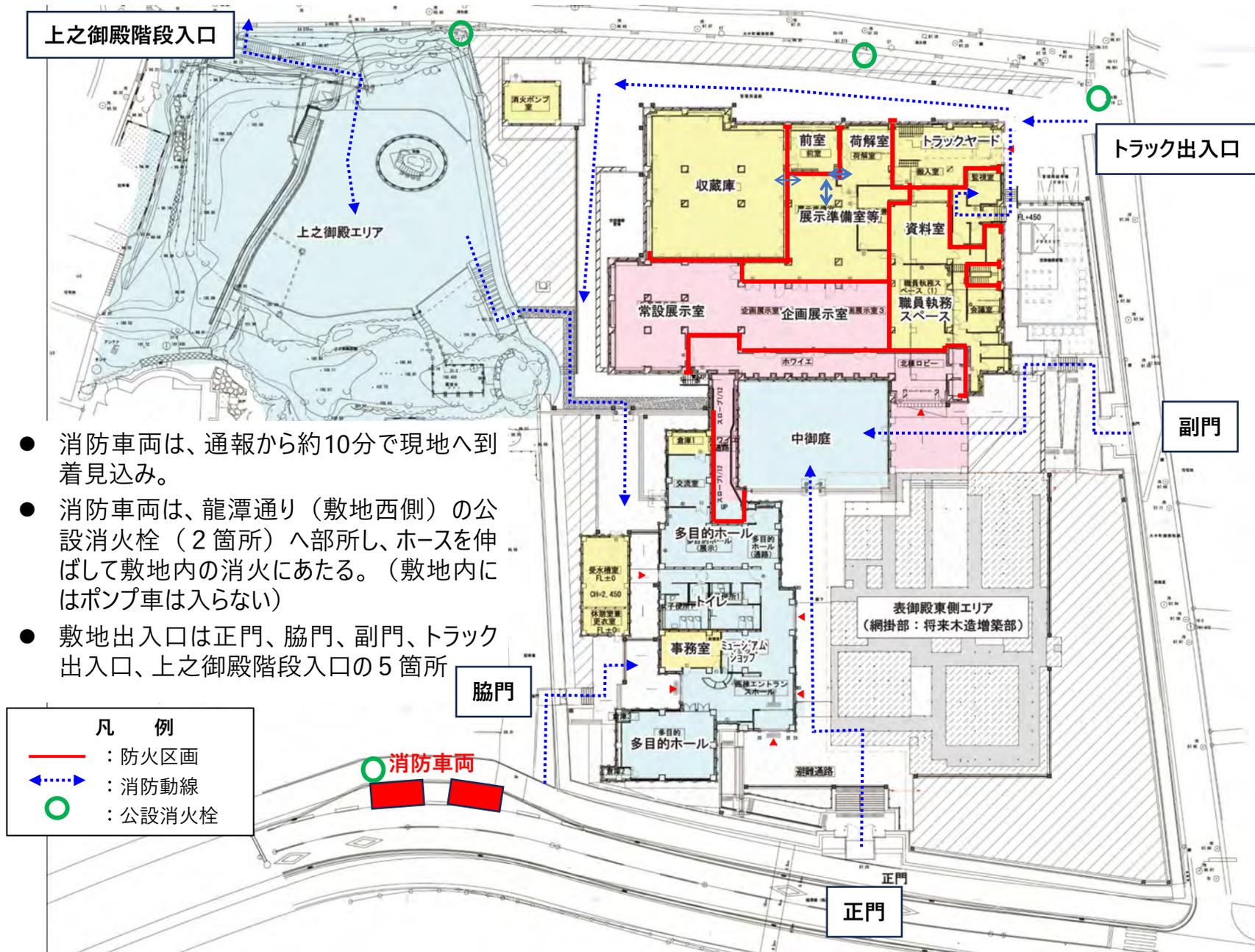
1. 平面計画 (動線および利用区域・管理区域)



2.防火・防災計画（防火区画、避難動線、消火設備）

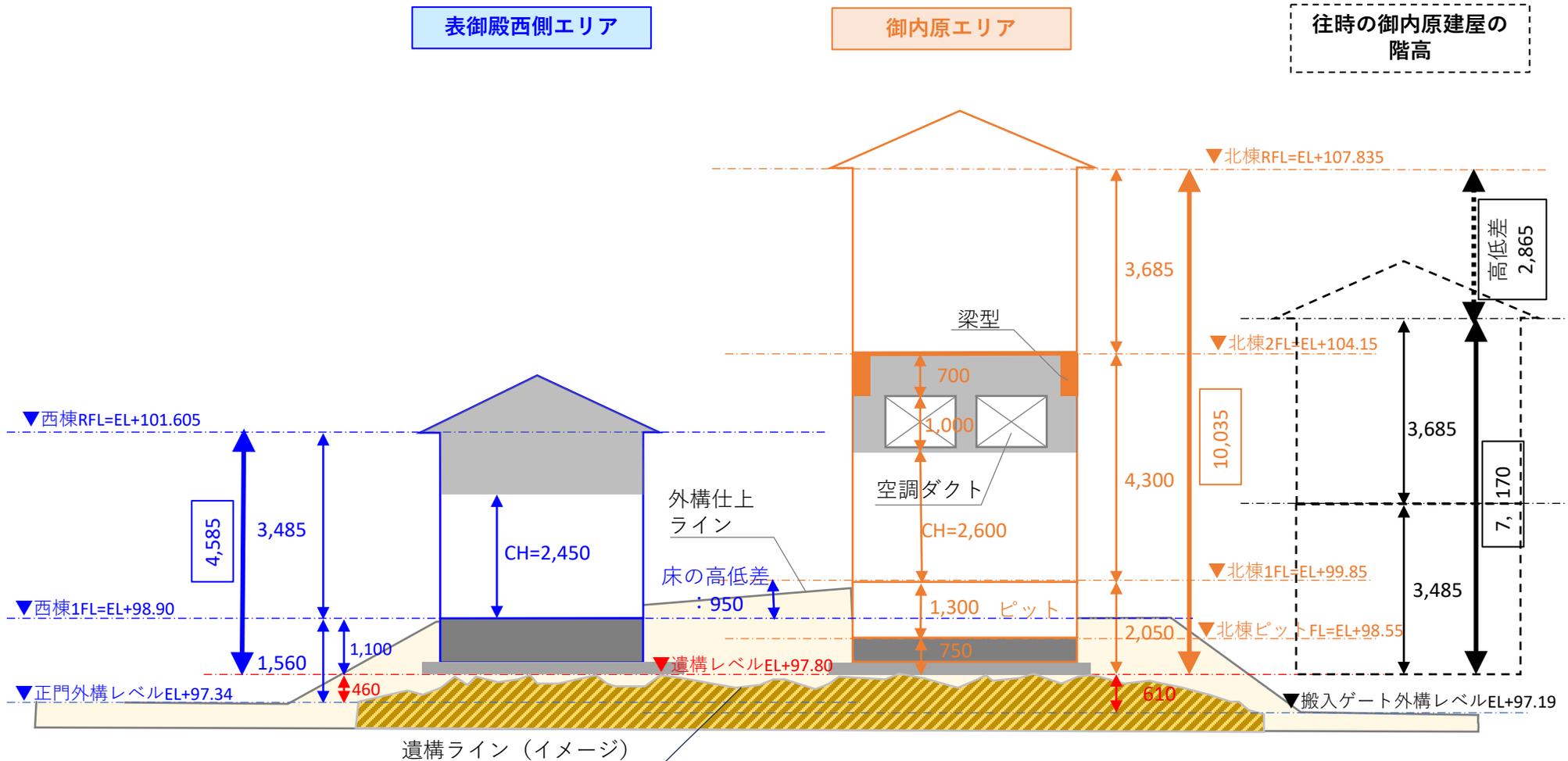


2.防火・防災計画（消防隊の活動）

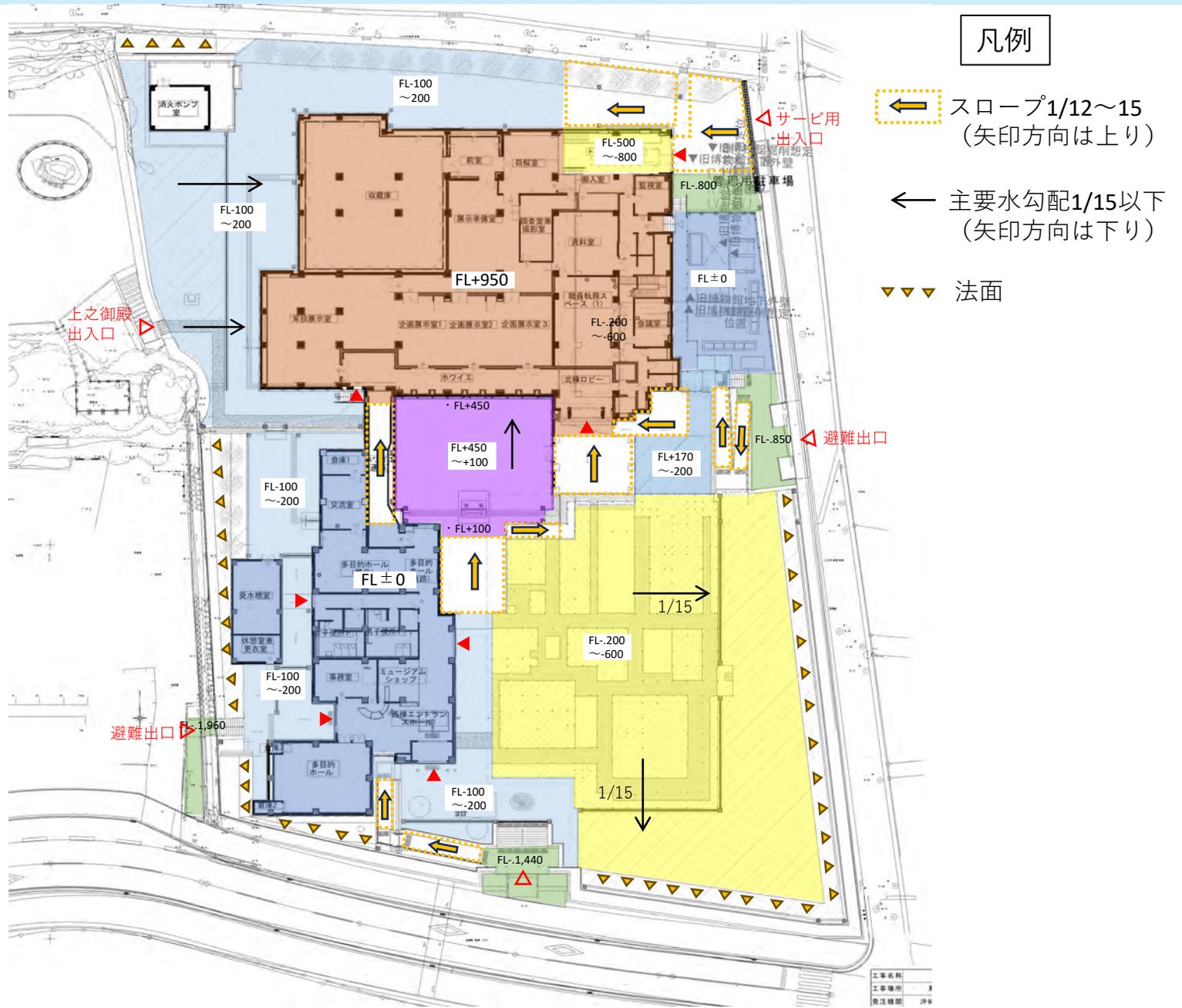


3. 断面計画（エリア別の高さ設定）

- 外構・遺構レベルを基準とした建物高さの断面構成を示す。
- 御内原エリアは遺構保護に配慮した上で、適切な展示収蔵環境を確保するため、往時の建物と比較し2,865mm高くなる。

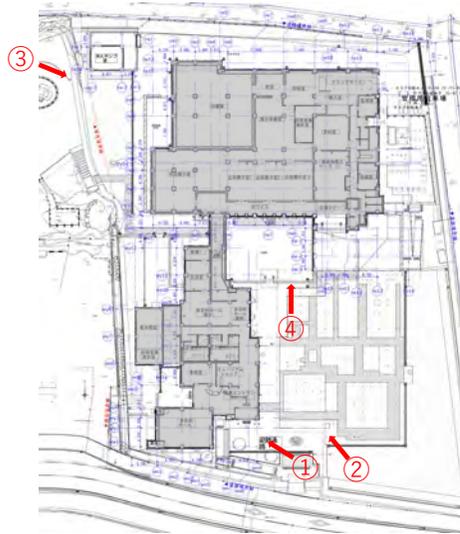


3. 断面計画 (エリア別の高さ設定)



4. 立面計画 (外観イメージ)

- 表御殿エリアは板図に則った外観とするため、板図の凡例毎に古写真からモジュールを作成し、外観を再現する。
- 御内原エリアは古写真の現存する中御庭側、東側を再現。その他の再現壁部分は資料が不在のため無開口の木壁とする。
- 増床部分は低層部分を瓦石垣を模した仕上げとし、上層部分は左官調塗装仕上げにより、再現部分との区別と質感の調和を図る。



①正門視点エントランスホール廻り外観



②正門視点全景外観



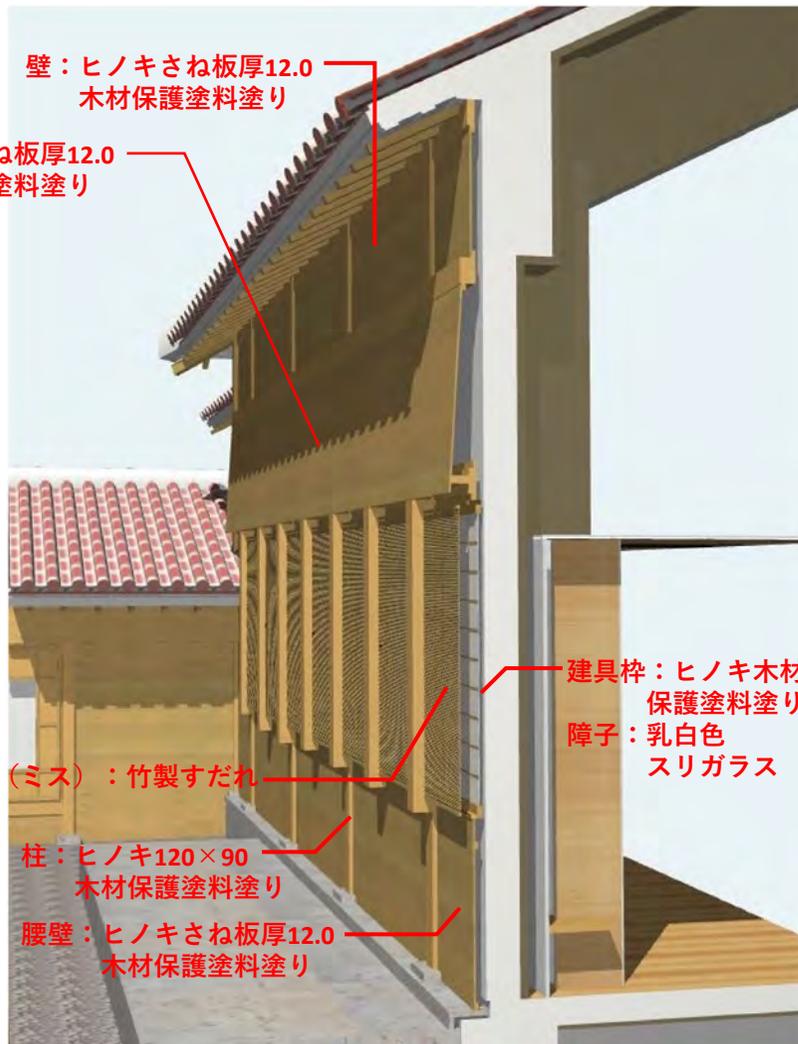
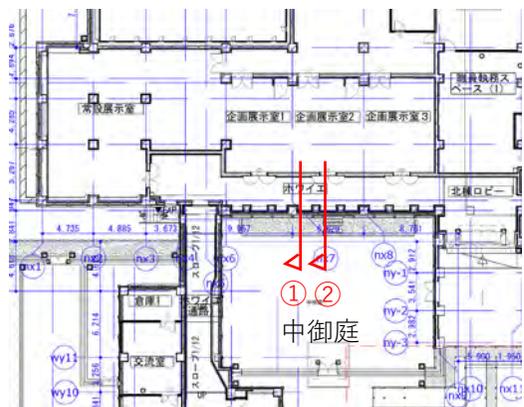
③上之御殿視点全景外観



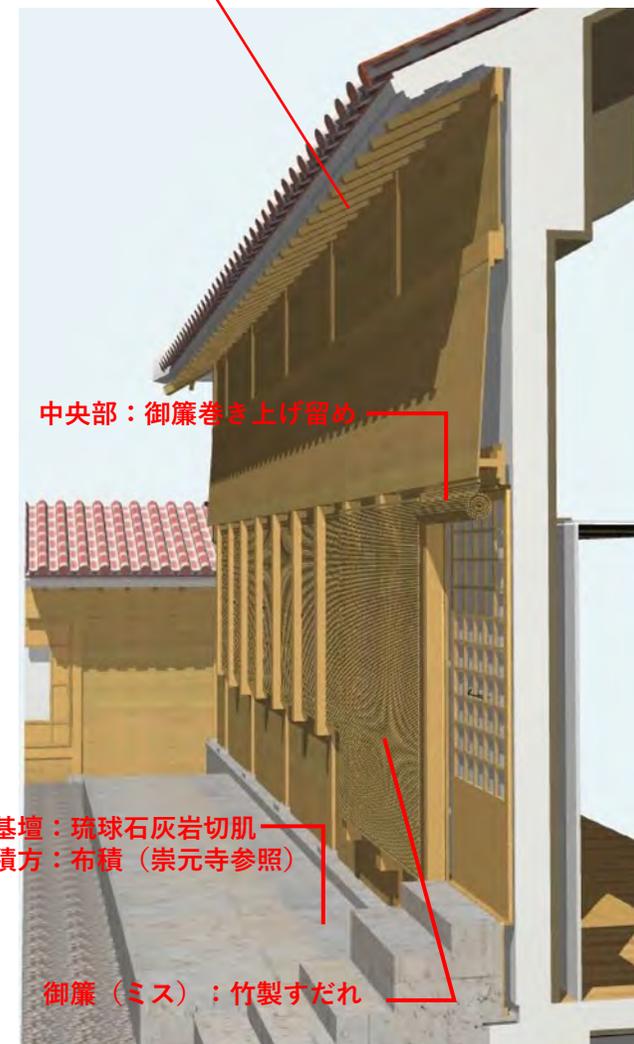
④中御庭外観

4. 立面計画 (主な外装仕上げ材)

- 外装の木材は耐久性が高く、経年劣化による“木痩せ”が少ないヒノキ材を採用する。
- 表面仕上げは木材保護塗料のクリアを採用し、往時の白木調の外観を再現する。
- 御簾 (ミス) は質感を重視し、竹製のすだれを採用。強風時対策は検討中。



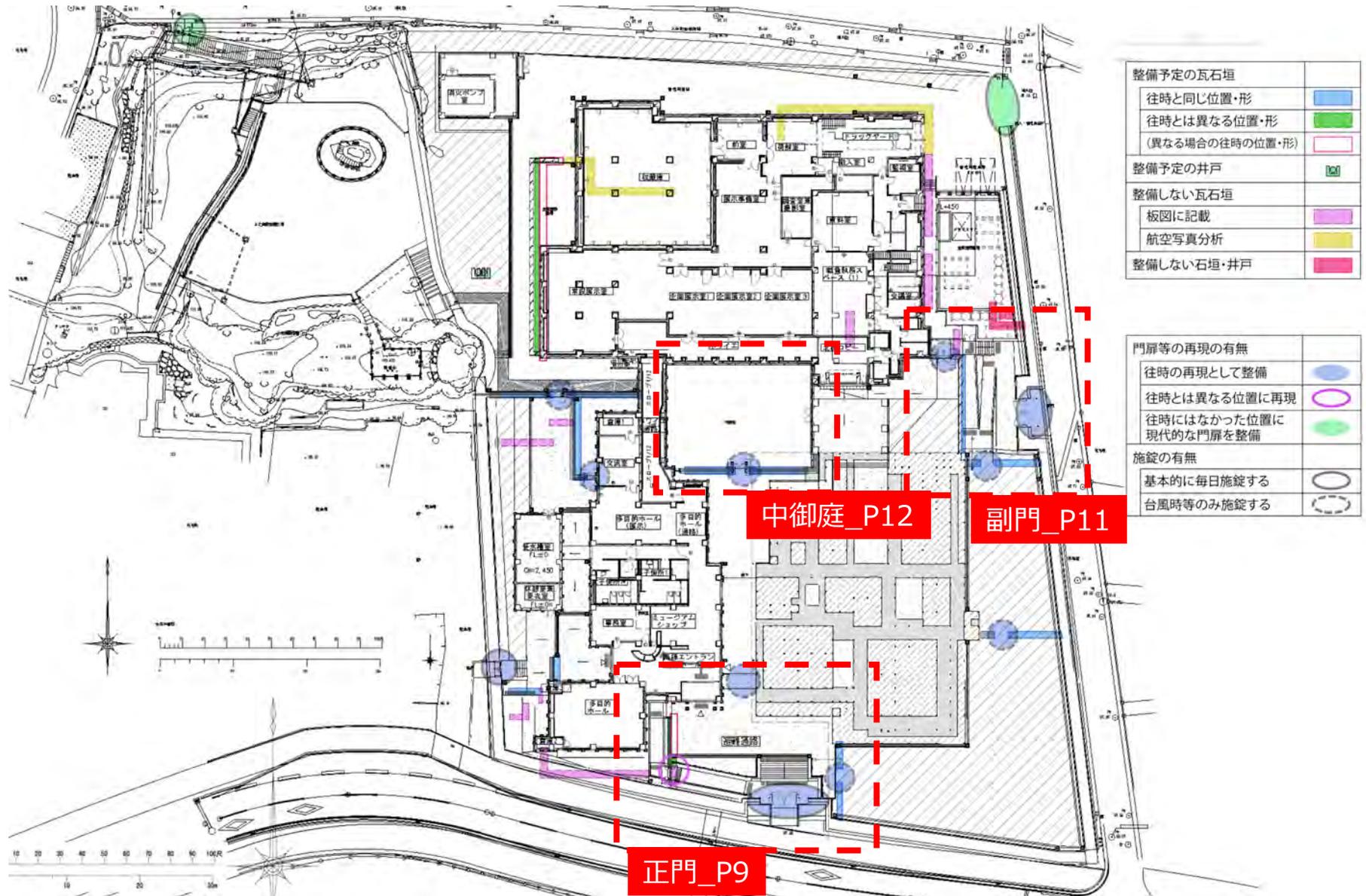
御内原エリア断面詳細①



御内原エリア断面詳細②

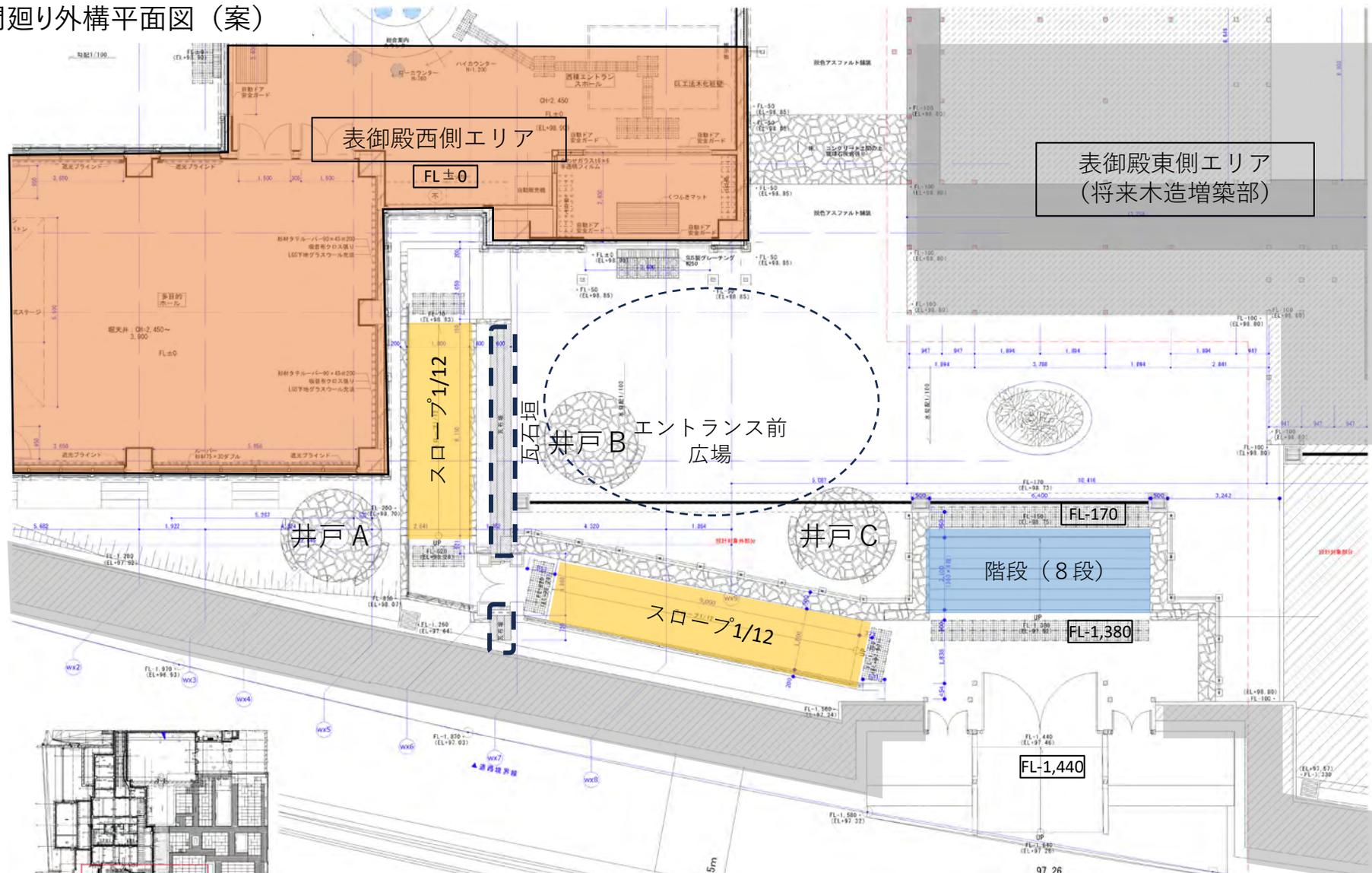
5.外構計画（正門・副門・中御庭のバリアフリー動線等の計画）

- 外構全体の整備イメージを示す。今回は、建物へのアプローチに係る正門、副門について詳細に整理する。



5.外構計画（正門のバリアフリー動線等の計画）

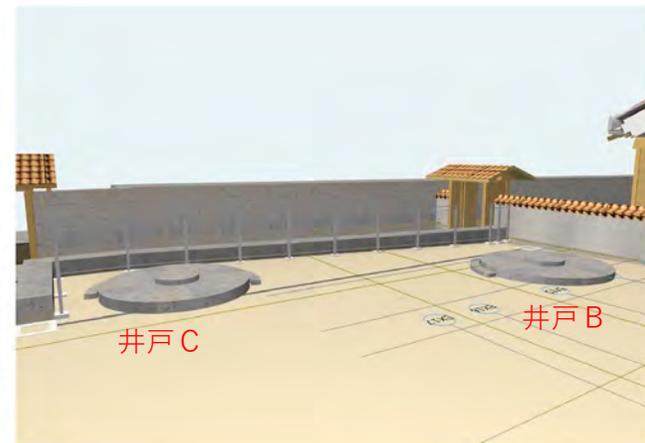
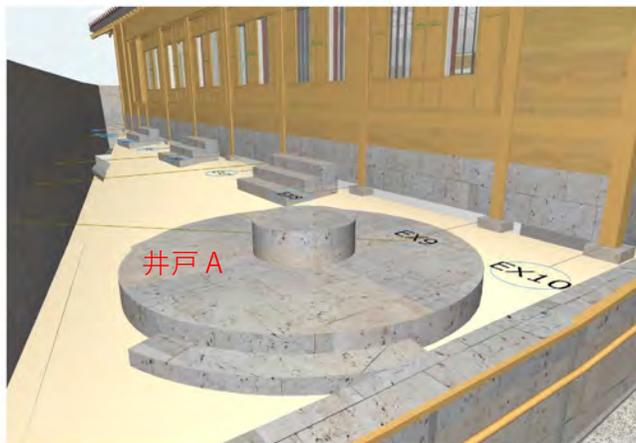
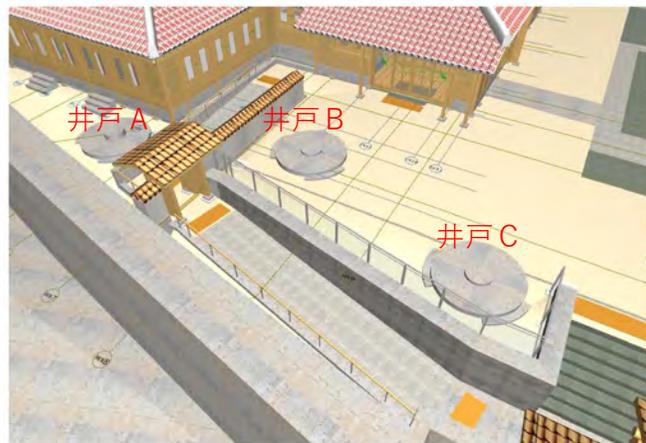
正門廻り外構平面図（案）



- 表御殿西側エリアの1階は、正門の外構レベルと1,440mmの高低差が生じるため、正門からの外観は往時と異なる。
- 再現案ではエントランス前広場から中御庭に至る外観を重視し、エントランス前広場を広く確保する計画を提案する。
- 車椅子対応のスロープは瓦石垣の裏を迂回するルートとすることで、スロープ長とエントランス前広場の空間を確保する。

5.外構計画（正門廻りの井戸移設位置の検討）

- 井戸の移設場所として以下の3案を検討。観覧のしやすさ等からC案が望ましいと考える。
- 屋外展示にあたっては、発掘調査の記録以外の情報がないため、説明サインにより、井戸遺構や再現に至る経緯を説明する。



井戸配置	井戸A	井戸B	井戸C
配置の考え方	往時の建物・石牆との位置関係を重視	来訪者に見やすいように前の位置に設置した案	来訪者に見やすいように前の位置に設置した案 (往時の位置から最も遠い)
管理運営上の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 瓦石垣の裏手に位置する。 ● スロープを上り手すり越しの見学となる。 ● 施設の維持管理動線の妨げになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 3方から近接して容易に観覧が可能となる。 ● 建物エントランス前広場として滞留空間や段差による安全面の確保にやや課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 手摺に2方が囲まれており、1方は階段からの動線に近いいため、観覧にはやや支障がある。
施工性	● 法面処理を行うため平地を確保できるか要検討	比較的容易	雨水排水計画の修正が必要

5. 外構計画（中御庭廻りの高さ設定）

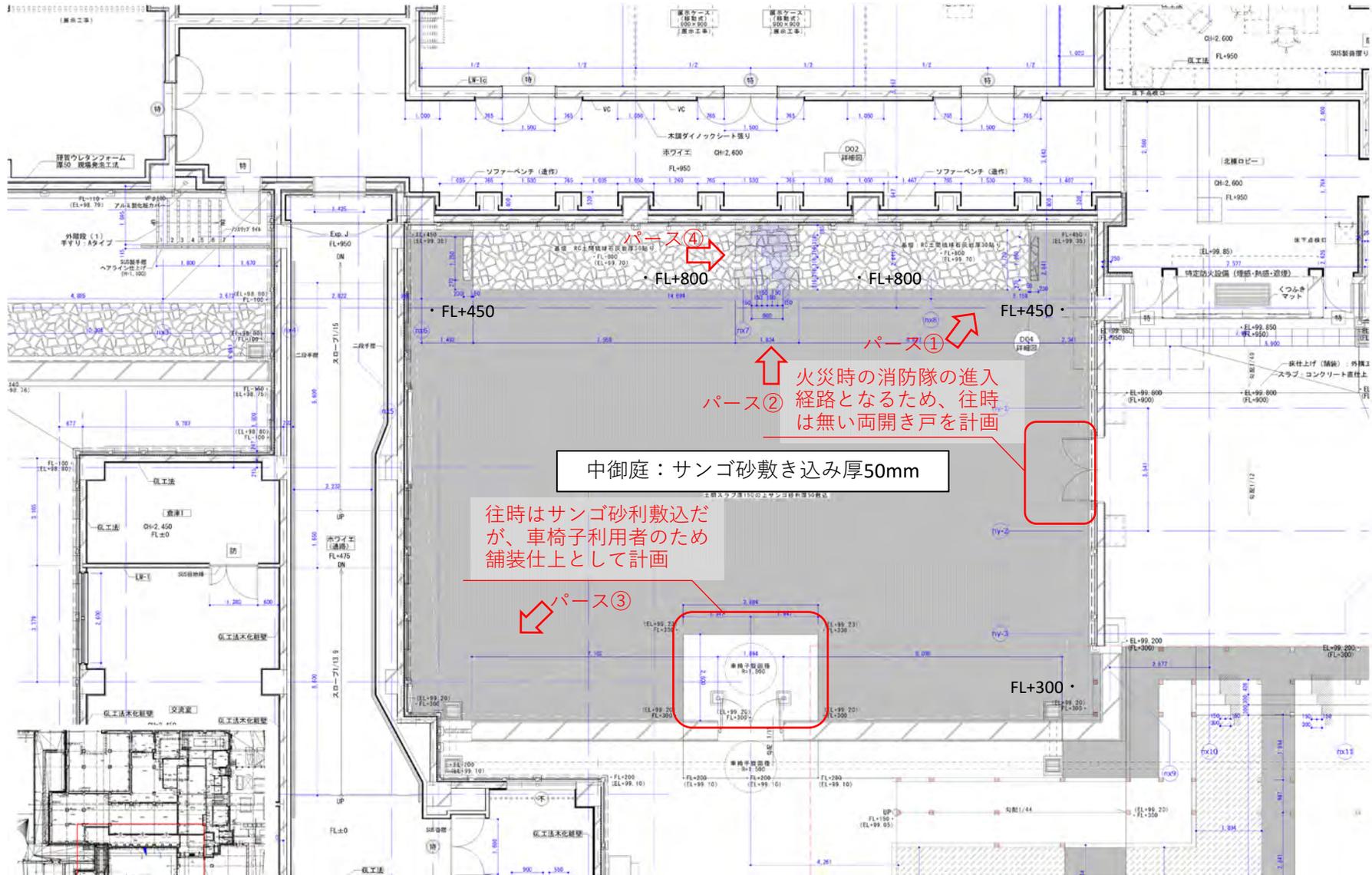
$$\begin{array}{ccccccccccc} \text{(地下ピット嵩上げ)} & & \text{(陸屋根 軒通し嵩上げ)} & & \text{(中御庭高低差)} & & & & \text{(大御殿屋根嵩上げ)} & & \\ 950 & + & 590 & - & 150 & = & 1,390 & \div & 1,325 & & \end{array}$$



- 中御庭は大御殿側が150mm高いが、御内原エリアの屋根全体を地下ピットや軒先通しのため嵩上げしており、大御殿の屋根は往時よりも1,325mm嵩上げとなっている。

5.外構計画 (中御庭の外構レベルと外観計画)

中御庭廻り外構平面図 (案)



5.外構計画（中御庭の外構レベルと外観計画）



①中御庭北東側パース



②中御庭北側パース



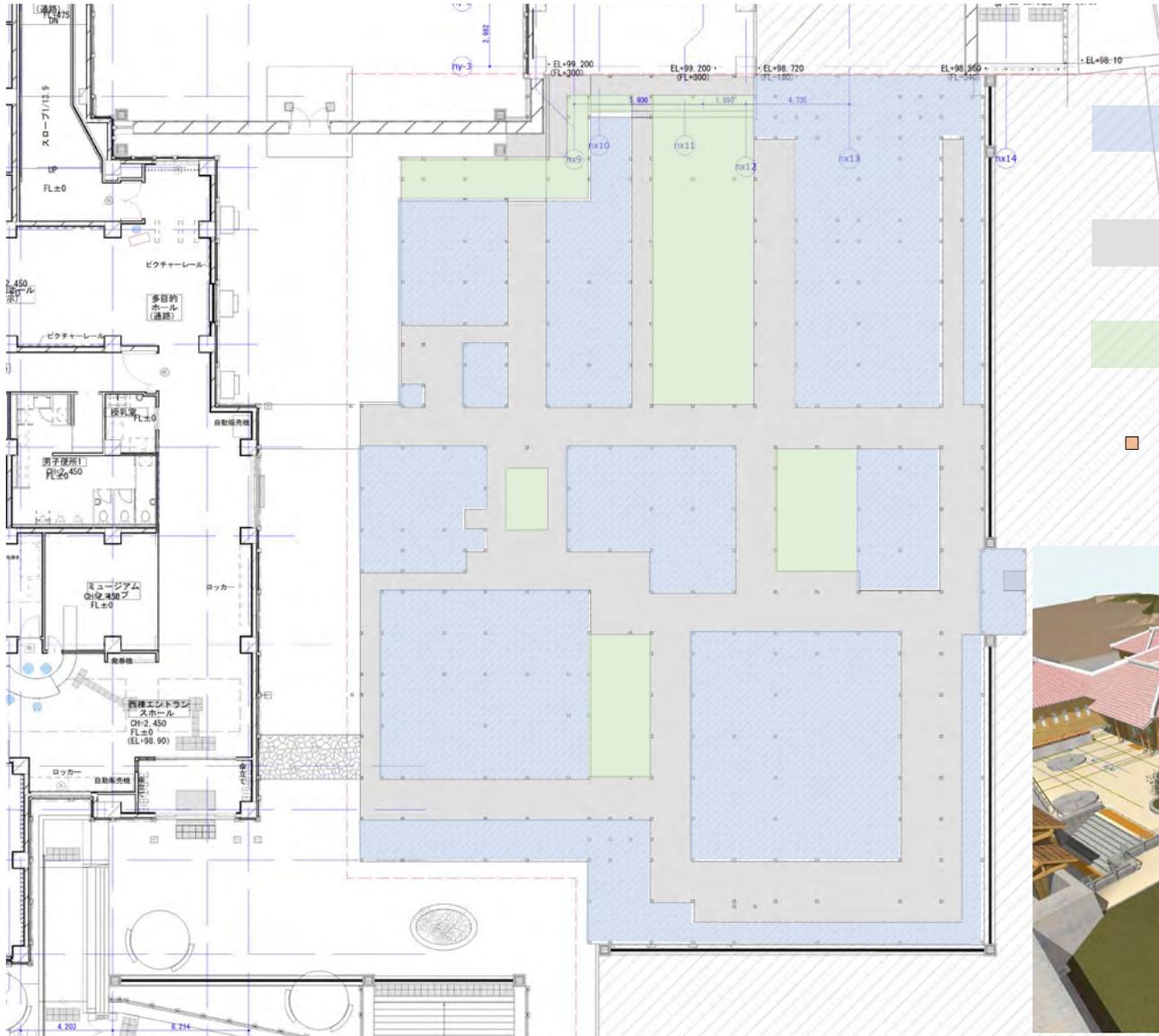
③中御庭南西側パース



④中御庭東側パース

5.外構計画 (表御殿東側エリアの平面表示)

- 表御殿東側エリアは、建屋の着工まで、広場としての運用が見込まれていることから、外構仕上げの違いにより、建屋の平面図を表す、段差の無い土間を計画する。



凡例

- 畳間部分：
コンクリート直均し仕上げ
- 板間（廊下）部分：
コンクリート洗い出し仕上げ
- 中庭部分：
脱色アスファルト舗装
- 柱部分：
琉石灰岩厚126×126厚20



6.防犯設備計画（計画方針）

■防犯カメラ

- 防犯カメラは未然防止の観点から、侵入者に対して可能な限り死角を作らないよう配置する。また、犯罪を未然に防ぐ目的のため可能な限り人目に付きやすい場所に設置する。
- プライバシー侵害の可能性がある場所、関係者以外立入しない場所については、防犯カメラではなく、防犯センサーにて対応する。
- 夜間（閉館時等）におけるわずかな明かりでも監視が可能な低照度型を採用する。
- 広範囲の監視ができる水平垂直回転動作及びズーム機能（PTZ機能（※））を有するものとする。
（※）PTZ機能：「Pan Tilt Zoom」の略で、Pan(パン：水平方向回転)、Tilt(チルト：垂直方向回転)、Zoom(ズーム：拡大縮小)が可能な機能のこと。
- 人の動き等、動体を自動検知するモーションセンサー機能付きとする。
- 主モニターは24時間管理の監視室に設置する。また、主モニター映像が管理職員にも見れるように、事務室に副モニターを設置する。
- 御内原展示関連エリアの防犯カメラは火災感知器との連動により感知箇所を自動的に監視モニターに画面表示を行うシステム機能を構築する。
- 盗難や犯罪が起きた場合の検証や証拠保全目的に録画保存できる装置を設置する。

■防犯センサー

- 侵入者を検知することを目的に防犯センサーを設置する。設置については、防犯カメラを設置しない部屋やその他不審者侵入の可能性がある箇所付近も設置する。
- 犯罪を未然に防ぐ目的のため可能な限り人目に付きやすい場所に設置する。
- 防犯センサーの種類はパッシブセンサー(人感センサー)を主体とする。
- 警報表示は24時間管理の監視室に設置する中央監視装置にて行う。また、中央監視の警報表示が管理職員も見れるように事務室に簡易監視盤を設置する。

■防犯灯

- 出入口及び開口部(トラックヤード出入口等)周辺に、センサー作動の防犯灯を設置する。